



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 MRKホールディングス株式会社

コード番号 9980 URL <https://www.mrkholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 真二

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 経営管理本部長兼経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-7655-5000

四半期報告書提出予定日 2023年2月10日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	14,244	4.6	371	58.3	491	37.2	359	143.0
2022年3月期第3四半期	13,615	3.2	234	△42.6	358	△26.8	148	△35.2

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 288百万円 (32.9%) 2022年3月期第3四半期 216百万円 (△42.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	3.55	—
2022年3月期第3四半期	1.46	—

(注) 2022年3月期第3四半期の数値は、当第3四半期からの表示方法の変更の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	17,309	13,981	80.8
2022年3月期	17,342	13,795	79.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 13,981百万円 2022年3月期 13,795百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	0.9	680	0.0	760	3.8	440	3.9	4.34

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

対前期増減率は、当期からの表示方法の変更の内容を反映させております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	101,295,071株	2022年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	447株	2022年3月期	387株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	101,294,677株	2022年3月期3Q	101,294,841株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(表示方法の変更)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間より、これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦に係る金利収益を「売上高」に含めて計上する表示方法の変更を行っております。当該変更に伴い、以下の経営成績に関する説明における前年同期比及び前年同期の諸数値につきましては、表示方法の変更の内容を反映させております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう美と健康に関する多彩なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向け、補整下着の販売を中心に、美容コスメや健康関連商品並びに、マタニティ及びベビー関連商品、婚礼・宴会関連事業、美容関連事業など、新たな商品・サービスの拡充を推進しております。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新たな変異株による新型コロナウイルス感染症再拡大やウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格の高騰などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおいては、日々の体温チェックやマスクの着用、除菌や清掃など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、お客様及び従業員に安心・安全な店舗空間の提供を継続してまいりました。

このような状況のもと、婦人下着及びその関連事業においては、急激な円安、原材料価格高騰による物価高の影響を受けて一部商品の値上げを行ったものの、補整下着の限定カラー商品が好評を得るなど、堅調に推移いたしました。

また、婚礼・宴会関連事業並びに、その他（主に美容関連事業）においては、復調の兆しが見え、着実に収益改善が進むなど、堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高142億44百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益3億71百万円（前年同期比58.3%増）、経常利益4億91百万円（前年同期比37.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億59百万円（前年同期比143.0%増）と前年同期比で増収増益となりました。

当社グループにおけるセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美や健康に関連する商品の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、補整下着の限定カラー商品が好評を得るとともに、オリジナルサプリメント「M.B.M.S（マルコビューティメイクサプリメント）」が堅調に推移した他、「MARUKO ASSE（マルコアッセ）」（オーダーメイドインソール及び専用シューズ）において、新たなお客様の開拓により、売上、利益ともに計画を上回って推移いたしました。

店舗展開においては、1店舗の新規出店に加え、4店舗の移転・改装を行い、お客様にご満足いただける店舗づくりを推進いたしました。

また、テレビCMの放映やウェブプロモーションなど、多彩なメディアプロモーションによる集客が好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は125億95百万円（前年同期比4.6%増）、セグメント利益は5億51百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

[マタニティ及びベビー関連事業]

マタニティ及びベビー関連事業においては、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨の販売が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、国内出生数が過去最低を見込むなど厳しい環境のもと、商品戦略を見直すなか、一時的に仕入を抑制し、在庫の適正化を進めた結果、売上が減収となりました。一方、エンジェリーベ水天宮前店において、2022年5月にスタートしたフォトスタジオサービスが順調に推移するなど新たな収益基盤の構築に向けて取り組みました。

以上の結果、売上高は9億3百万円（前年同期比9.3%減）、セグメント損失は69百万円（前年同期は56百万円のセグメント損失）となりました。

[婚礼・宴会関連事業]

婚礼・宴会関連事業においては、結婚式場の運営やカフェ・レストランなどの飲食事業の運営が主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、政府・行政による行動制限の緩和に伴い、婚礼・宴会の予約と施行に着実に復調の兆しが見られました。また、法人向け営業を強化したことから、収益改善が順調に進みました。

以上の結果、売上高は2億95百万円（前年同期比60.9%増）、セグメント損失は1億24百万円（前年同期は1億65百万円のセグメント損失）となりました。

[その他]

その他においては、美容関連事業などが主要事業であります。

当第3四半期連結累計期間においては、美容関連事業において、安定的な顧客基盤に加え、物販売上が好調に推移した結果、黒字事業として復調し、前年同期比で増収増益となりました。

以上の結果、売上高は4億87百万円（前年同期比8.7%増）、セグメント利益は11百万円（前年同期は15百万円のセグメント損失）となりました。

※上記、各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は117億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ45百万円増加いたしました。これは主に、関係会社短期貸付金の増加、売掛金の増加、現金及び預金の減少、短期貸付金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は55億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ78百万円減少いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加、貸倒引当金の増加及び退職給付に係る資産の減少の結果によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は28億29百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億11百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加、株主優待引当金の減少、未払費用の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は4億98百万円となり、前連結会計年度末に比べ7百万円減少いたしました。これは主に、資産除去債務の減少、繰延税金負債の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は139億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億86百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加及び退職給付に係る調整累計額の減少の結果によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想については、2022年5月12日の「2022年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,289,538	2,509,271
売掛金	3,210,351	4,303,660
商品	1,274,061	1,200,744
原材料及び貯蔵品	230,028	169,453
短期貸付金	1,350,000	—
関係会社短期貸付金	—	3,000,000
その他	387,972	590,697
貸倒引当金	△69,878	△56,152
流動資産合計	11,672,073	11,717,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,944,980	2,136,803
その他(純額)	1,603,115	1,544,217
有形固定資産合計	3,548,095	3,681,021
無形固定資産	437,929	398,664
投資その他の資産		
その他	1,769,318	1,622,509
貸倒引当金	△85,345	△110,370
投資その他の資産合計	1,683,972	1,512,139
固定資産合計	5,669,996	5,591,824
資産合計	17,342,070	17,309,498
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	871,284	1,096,816
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	153,052	62,047
賞与引当金	149,309	59,429
ポイント引当金	71,000	81,000
株主優待引当金	201,505	94,303
資産除去債務	17,669	16,420
その他	1,477,261	1,319,487
流動負債合計	3,041,082	2,829,504
固定負債		
資産除去債務	495,820	492,597
その他	10,004	5,525
固定負債合計	505,825	498,122
負債合計	3,546,907	3,327,626
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	695,257	953,808
自己株式	△72	△79
株主資本合計	13,660,523	13,919,068
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	134,638	62,803
その他の包括利益累計額合計	134,638	62,803
純資産合計	13,795,162	13,981,872
負債純資産合計	17,342,070	17,309,498

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	13,615,762	14,244,256
売上原価	3,219,465	3,483,615
売上総利益	10,396,297	10,760,641
販売費及び一般管理費	10,161,390	10,388,819
営業利益	234,906	371,821
営業外収益		
受取利息	6,574	77,807
受取手数料	28,289	28,619
株主優待引当金戻入額	80,169	—
その他	15,307	19,884
営業外収益合計	130,341	126,312
営業外費用		
支払利息	1,460	424
貸倒引当金繰入額	2,064	—
租税公課	1,660	4,517
その他	1,715	1,636
営業外費用合計	6,901	6,578
経常利益	358,347	491,555
特別利益		
受取補償金	—	26,273
その他	16,739	7,253
特別利益合計	16,739	33,526
特別損失		
減損損失	4,480	1,099
新型コロナウイルス感染症による損失	3,264	—
災害による損失	—	20,765
その他	8,052	7,127
特別損失合計	15,797	28,992
税金等調整前四半期純利益	359,289	496,089
法人税、住民税及び事業税	78,482	66,172
法人税等調整額	132,745	70,072
法人税等合計	211,227	136,244
四半期純利益	148,061	359,845
親会社株主に帰属する四半期純利益	148,061	359,845

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	148,061	359,845
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	68,588	△71,834
その他の包括利益合計	68,588	△71,834
四半期包括利益	216,650	288,010
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	216,650	288,010
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦販売に係る受取手数料は、当第3四半期連結会計期間より「売上高」に含めて計上する方法に変更いたしました。

当社グループでは顧客の商品購入に際しての負担を軽減することを目的とした販売方法として自社割賦販売を導入しており、販売を通じて得られる受取手数料は商品販売に付随する業務から得られる収入として営業外収益として表示しておりました。しかし、当第3四半期連結会計期間より、自社割賦販売を戦略的に取り入れる経営方針に転換することとなりました。そのため当社グループの自社割賦販売から生じる受取手数料の獲得は主要な営業活動の成果の一つとして位置づけたことに伴い、営業活動の成果を適切に反映するために表示方法を変更するものであります。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取手数料」93,430千円の内、65,141千円は、「売上高」65,141千円に組み替えております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,025,422	990,506	151,872	13,167,800	447,962	13,615,762
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,483	5,270	31,684	51,438	340	51,778
計	12,039,905	995,776	183,556	13,219,238	448,302	13,667,541
セグメント利益 又は損失(△)	473,158	△56,934	△165,991	250,232	△15,907	234,325

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	—	13,615,762
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△51,778	—
計	△51,778	13,615,762
セグメント利益 又は損失(△)	581	234,906

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、美容関連事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額581千円には、減価償却の調整額が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ 及びベビー 関連事業	婚礼・宴会 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,594,741	903,652	258,488	13,756,882	487,373	14,244,256
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,050	—	36,842	37,892	50	37,942
計	12,595,791	903,652	295,330	13,794,775	487,423	14,282,199
セグメント利益 又は損失 (△)	551,558	△69,963	△124,232	357,362	11,148	368,511

(単位：千円)

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	—	14,244,256
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△37,942	—
計	△37,942	14,244,256
セグメント利益 又は損失 (△)	3,310	371,821

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業活動であり、美容関連事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額3,310千円には、減価償却の調整額が含まれております。
 3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、これまで「営業外収益」の「受取手数料」に含めて計上しておりました自社割賦に係る金利収益は、「売上高」に含めて計上する方法に変更いたしました。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の表示方法により作成しております。